乗円寺寺報

平成29年10月
報恩講前号
寺報から訊く
寺報No15

老僧の独り言　～私が教えてもらったこと。品とは～

　某月刊誌のコラムに、今は亡き映画界の巨匠と言われた、黒沢明監督のありし日のエピソードが載っていました。氏は亡くなる直前に、人生最後の作品として映画界の歴史に残るような、想像もしなかった大作を撮ろうと、壮大なスケールの作品の構想を練っておられました。その話が何処からか漏れたのか、早速ある芸能プロダクションから責任者が飛んできました。「是非うちに所属している美人の誇れ高き〝Ａ女〟を使ってほしい。出来れば主演級でお願いしたい。」と強引に申し出たことがあったそうです。

　その女優の名前を聞かれた黒沢氏は即座に言われました。「彼女は駄目だ」と。それを聞いても尚食い下がる芸能プロダクションが「理由は何か」と余りにしつこくせまったので、やむなく、後で名誉棄損だ、人権蹂躙（じんけんじゅうりん：人が生まれながらに持っている権利を侵すこと）だなどと騒ぎ立てないことを確約の上、言われました。「彼女が美人であることは、無条件に認める。だが、彼女には〝品〟が無い。私は相手が美人である無しには、こだわらない。本人の体から滲み出るような個性と、その人特有の〝品〟を求めて作品を創っている」と。話合いはここで終わりました。

　〝品〟とは何でしょうか。人間には眼に見えいなもの（神も佛も含む）に対して、畏敬の念（いけいのねん：おそれて敬う心情のこと）を抱き、畏怖の情（いふのじょう：おそれおののく感情）を起こす、天性の心理的習性が備わっていると言われますが、その心の存在を理解出来る人と、全然無関心の人が雑居しているのが人間社会なのです。最も身近なところに存在した教えのように、先祖を尊び、親孝行しなさいと教えられた例として「父の恩は山よりも高く、母の恩は海よりも深い」と教えられてきました。いつまでも自己中心の中にしか生きられない人達には、この機微が、分からないのではないでしょうか。その真意を理解する一つの手立てとして、目に見えないものに対して、畏敬の念を抱き、畏怖の情を起こす、心理的な自覚が求められるのではないかと思います。

　山川草木悉皆成仏（さんせんそうもくしっかいじょうぶつ）と教えられています。意味は目に見えるもの、すべてのものに、佛性（仏としての性質、仏となれる可能性）ありということ。そんな中でお念仏を称えることの出来るのは、人間だけなのです。

　誰の人も心の中に蓄積された〝畏敬の念〟〝畏怖の情〟から滲み出るもの、それがその人の〝品〟ではないでしょうか。巨匠と言われた黒沢監督がいかに深く心を費やして、映画製作にあたっておられたかを知り、そこに卓越せる偉大な人間性と、深奥なる識見（しきけん：物事を正しく見分ける力）に立たれた、品の輝きを見せられた思いがします。　合掌

紙上体験！報恩講

10月4日・5日
乗円寺報恩講

今年も報恩講の季節がやってきました。

毎年、お参りに来て下さる方。新しい御縁でお参りを考える方。今年は行ってみようかと考える方。さまざまだと思いますが、多くの方にお参りをしていただければ嬉しく思います。とはいえ、はじめてや、久し振りだったりすると何か足が重い・・・・。そんな方もおられるのではないかなと思い、去年の写真を掲載し、雰囲気を紙上でお伝えしようと、まとめました。ほんの少しですが、解説も入れておりますので、ご覧いただければ幸いです。

①事前の準備を整え、この旗と打敷がお出迎えします！

事前の掃除や、準備を役員さんやお世話方がお手伝いしてくれます。綺麗に準備してありますので、寺に入ったら、受付をし、お斎札を受け取って下さい。

②心を広くして報恩講のお参り！そして法話・講話でお勉強！

２日間にわたり総勢２０名の僧侶が、乗円寺に集まります。月参り、葬儀や御法事とは違った、複数の僧侶が声を張り上げる声明（お勤めを唱えること）を体感し、合掌してみて下さい。

解説①合掌　私が学生の頃インドに行った時、幼稚園で子供たちと一緒に給食を食べる機会をいただきました。その時、その土地に合わせ、生まれてはじめて給食を手で食べました。汁物もすべて、手で食べるため、うまく食べられず、両手を使って食べました。すると、何を言っているか最初は分からなかったのですが、左手を使って食べている私を見て、子供達が笑っていました。インドでは左手で食べたら駄目なのです。理由は、インドでは右手が清浄な手、左手が不浄な手とされています。だから、右手で食べる。さらにこの考えは合掌にもあり、清浄な手は仏の象徴、不浄な手は人間をあらす。右手の仏と、左手の自分を合わせることで一体となり、一心にまっすぐ気持ちを向かわせる。合掌は、インドのこの考えが伝わり、今の形があるようです。

③お参りの後は手作りの「お寺ご飯」！報恩講お斎、金沢の飛竜頭（ひろず）をご賞味下さい！！

解説②お斎　最近のお斎は、法事の後に食べる精進料理や、時に少し豪華な食事をイメージしますが、本来は亡き人を偲び、会食する仏事の一環、又はお参りされた方へのお礼の意味がある食事で、昔は家で作っているケースがほとんどでした。乗円寺報恩講では、今でもすべて手作りのお斎が、振る舞われます。最近、手作りしているお斎は減りましたので、ある意味貴重です。そのお斎の目玉はなんといっても、飛竜頭。「ひりゅうず」「ひりょうず」「ひろうす」と発音するらしいのですが、金沢では、呼び方がなまって「ひろず」といわれるようになったようです。飛竜頭は真宗の仏事と縁が深く、報恩講のお斎の精進料理に振舞われます。報恩講は、親しみを込めて「ほんこさん」と呼ばれ、お斎では人々が集って飛竜頭の煮物や小豆汁などを食し、招く側はもてなしの気持ちを込めて料理を作ります。この飛竜頭はニンジンやシイタケ、ゴボウ、ギンナン、レンコンがほぼ原形のまま入っています。中の具にまで味をしみわたらせるために砂糖や醤油、みりん、酒などを薄めに入れじっくり煮含める。箸を入れると、うまみがダシとともにジュワッと広がり、ご飯と食べると最高の「お寺ご飯」です。希望者全員に振る舞われますので、お参りの後にぜひご賞味ください。

報恩講10月4日（水）特別講話のご案内

13：50頃～詳細案内参照

2017年10月　報恩講日程

4日（水）
9:30～　特別永代経
10:00～　老僧法話
10:30～　報恩講お日中
　　住職法話
正午～　お斎（おとき）
13:00～　報恩講お逮夜と
納骨堂改修工事記念講話
「お墓から考える自分の人生」
　　薄井先生

5日（木）
9:30～　特別永代経
10:00～　老僧法話
10:30～　報恩講お日中
納骨堂報恩講　住職法話

発行所：乗円寺
金沢市石引１丁目4-20
TEL076-221-3421
Fax076-221-3449
✉：info@jouenji.net
印刷協力：川場印刷
寺報、発送希望が
ございましたらお気軽に。

乗円寺　ホームページが完成しました！！
http://jouenji.net